



XML Consortium

【 Web2.0勉強会 第1回ミーティング】



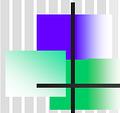
## Web2.0的アプリケーションを考える

PAGE2006クロスメディアコンファレンス報告  
～ iPlatを題材に ～

2006年3月3日

荒本道隆(アドソル日進株式会社)  
宮崎昭世(日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社)  
松山 憲和(PFUアクティブラボ株式会社)

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



## アジェンダ



- ◆ Ajax実装実演
- ◆ ASP.NET 2.0 によるAjax 実装
- ◆  プロジェクトのご紹介
- ◆ Web2.0視点からみた 
- ◆ まとめ

XML Consortium

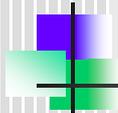
Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



## Ajax実装実演

2006年3月3日

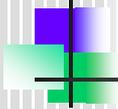
荒本道隆 (アドソル日進株式会社)



## はじめに



- Web 2.0 とは？
  - Web 2.0: 次世代ソフトウェアのデザインパターンとビジネスモデル (Tim O'Reilly)
    - <http://japan.cnet.com/column/web20/story/0,200054679,20090039,00.htm>
  - Web 2.0の原則
    - この中のひとつが「リッチなユーザー経験」

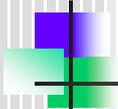


## はじめに



- リッチなユーザー経験とは？
  - Google Maps
    - <http://maps.google.co.jp/>
  - Google サジェスト
    - <http://www.google.co.jp/webhp?complete=1&hl=ja>

これらのブラウザでリッチなUIを実現する  
技術が Ajax



## はじめに



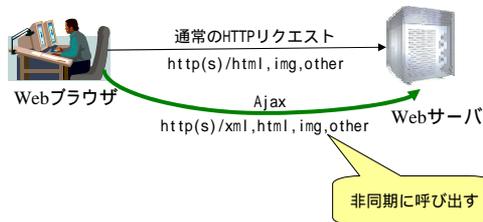
- ゲーム
  - Google Mapsで鈴鹿サーキット試走
    - <http://tech.nitoyon.com/javascript/application/racing/1/>
  - 日本語入力
    - <http://chasen.org/~taku/software/ajax/fullime/>

ブラウザだけで何でも出来る？

## Ajaxとは？



- **Asynchronous** JavaScript + XML
  - JavaScript® と XMLHttpRequest オブジェクトといった既存技術の組み合わせ
- 『Google Map』『Googleサジェスト』で一躍有名に
- 「Web」 = 「画面遷移」ではなくなった



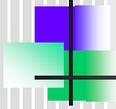
Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.

## Ajaxとは？

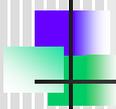


- 枯れた技術で、よりリッチなUIが実現できるが..
- デメリットもある
  - **Webブラウザごとの差異**に対応する必要がある
  - JavaScript®を無効にしていると使えない
  - 開発環境があまりない

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



- JavaScriptによる実装デモ (アドソル日進 荒本)



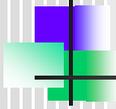
```

<html><head>
<script type="text/javascript"><!--
function goRequest () {
    xmlDoc = new ActiveXObject ("Microsoft.XMLDOM");
    xmlDoc.async = false;
    xmlDoc.loadXML (form1.orgXML.value);
    // xmlDocを操作して、リクエストパラメータを埋める

    xmlhttp = new ActiveXObject ("Microsoft.XMLHTTP");
    xmlhttp.onreadystatechange = check; // オブジェクトの状態が変化したときに実行されるイベントハンドラ
    xmlhttp.open ("POST", form1.endpoint.value, true); // 第3引数は、同期実行
    xmlhttp.setRequestHeader ("SOAPAction", "*" + form1.soapaction.value + "*");
    xmlhttp.send (xmlDoc);
}

function check () {
    try {
        form1.res.value = xmlhttp.responseText;
    } catch (ex) {
        return;
    }
    if (xmlhttp.readyState == 4 && xmlhttp.status == 200) {
        // 完全な応答を得た
        xmlDoc = xmlhttp.responseXML;
        // xmlDocを操作して、結果を取り出す
    }
}
// --></script>
</head>
<body>
<form name="form1">
URL:<input type="text" size="100" name="endpoint" value="Webサービスのエンドポイント"><br />
SOAPAction:<input type="text" size="100" name="soapaction" value=""><br />
元XML:<textarea name="orgXML" cols="100" rows="10">リクエストSOAPメッセージ</textarea><br />
<input type="button" onclick="goRequest()" value="リクエスト"><br />
<br />
レスポンス:<textarea name="res" cols="100" rows="10"></textarea><br />
</form>
</body>
</html>
<small></small>注意: IEでしか動作しません。 </small>

```



## Ajaxで開発する上での課題



XML Consortium

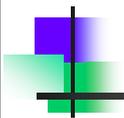
- Webブラウザごとの差異
- 接続先が、JavaScriptと同じサイトに限定
  - Proxyの利用
  - JavaScriptを接続したいサイトに設置
  - 「信頼するサイト」にすれば、別サイトに接続可能
- フレームワークの利用
  - JavaScriptによる開発では、prototype.js など

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



XML Consortium

【 Web2.0勉強会 第1回ミーティング】



## ASP.NET 2.0 でのAjax 実装

2006年3月3日

宮崎昭世 (日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社)

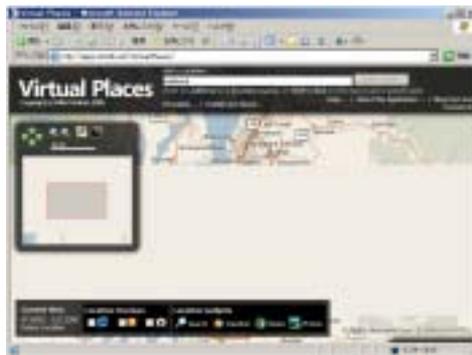
Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.

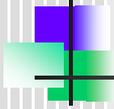
- Microsoft “Atlas” Project

- <http://atlas.asp.net/>
- Ajax Web アプリケーションを ASP.NET で、より簡単に開発するためのライブラリ

- “Atlas” で開発されたアプリケーションの例

- <http://apps.nikhilk.net/VirtualPlaces/>





# ASP.NET 2.0 での Ajax 実装

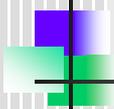


XML Consortium



Atlas の Project を作成すると必要な初期設定が行われる

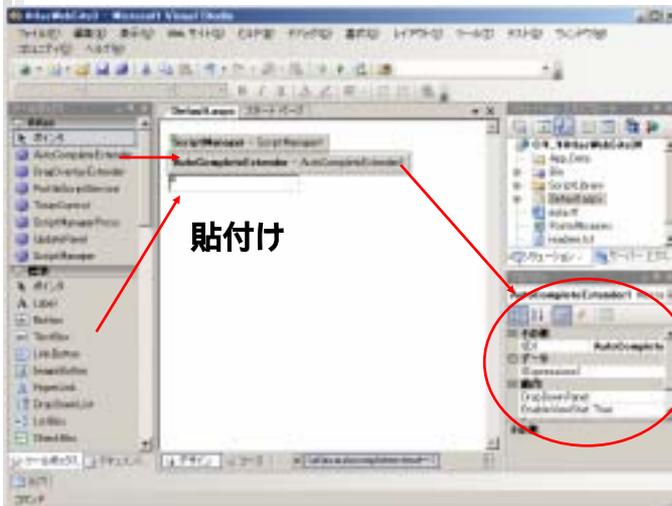
Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



# ASP.NET 2.0 での Ajax 実装



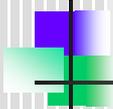
XML Consortium



貼付け

プロパティ設定  
現バージョンでは使えないため、ソースに直接書き込む必要がある

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



# ASP.NET 2.0 での Ajax 実装



XML Consortium

Atlas.aspx

```

<%@ Page Language="C#"%>
<html>
<body>
  <form id="form1" runat="server">
    <atlas:ScriptManager ID="ScriptManager1" runat="server" />
    <asp:TextBox ID="TextBox1" runat="server"></asp:TextBox>
    <atlas:AutoCompleteExtender ID="AutoCompleteExtender1" runat="server">
      <atlas:AutoCompleteProperties Enabled="true"
        TargetControlID="TextBox1"
        ServicePath="Ldap.asmx"
        ServiceMethod="GetMailAddressList" />
    </atlas:AutoCompleteExtender>
  </form>
</body>
</html>

```

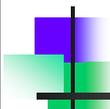
結果を表示するコントロール

呼出すWebサービス



## XML Consortium

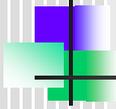
【 Web2.0勉強会 第1回ミーティング 】



### iPLAT のプロジェクトご紹介

2006年3月3日

松山 憲和 (PFU アクティブラボ株式会社)

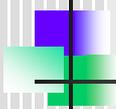


財団法人日本道路交通情報センター様が道路交通情報の用途拡大、民間ビジネス拡大を視野に入れ、Webサービスとして試験提供がきっかけ。



- ・『道路交情情報Webサービスを使った複合Webサービス実証実験』として、ドキュメント・メタデータ活用部会とWebサービス実証部会が共同で実施。
- ・メタデータとWebサービスの融合したシステム『旅行プラン作成システム：MyTravlePlanner』

参加企業数	全29社 (団体)	実証実験システム開発	20社
		協力会社(会員企業)	2社
		協力団体/企業(会員企業以外)	7社
開発参加メンバー	54名		
開発期間	約4ヶ月間(勤務時間後、休日、業務の合間、会社を休んで)		
開発に使用した製品	18製品 (サービス)	Webサービス/SOA関連	13製品
		Blogなど	5製品
連携したシステム	13個のWebサービス、4個のコミュニティシステム		



## 特徴

### 衛星地図から目的地を簡単選択

- 商用で世界最高の解像度の衛星地図上に、観光地や宿泊施設、イベントなど30種類以上の情報をアイコン表示
- Blog情報も衛星地図上にアイコン表示
- アイコンを使って目的地を簡単に選択

### 詳細情報の表示

- 選択されたアイコンの詳細な情報を表示：観光地、宿泊施設...
- 詳細情報に関連する情報を表示
- Blogサイトにリンク
- 日本語だけではなく、英語、中国語、韓国語に自動翻訳

### 旅行プランの作成

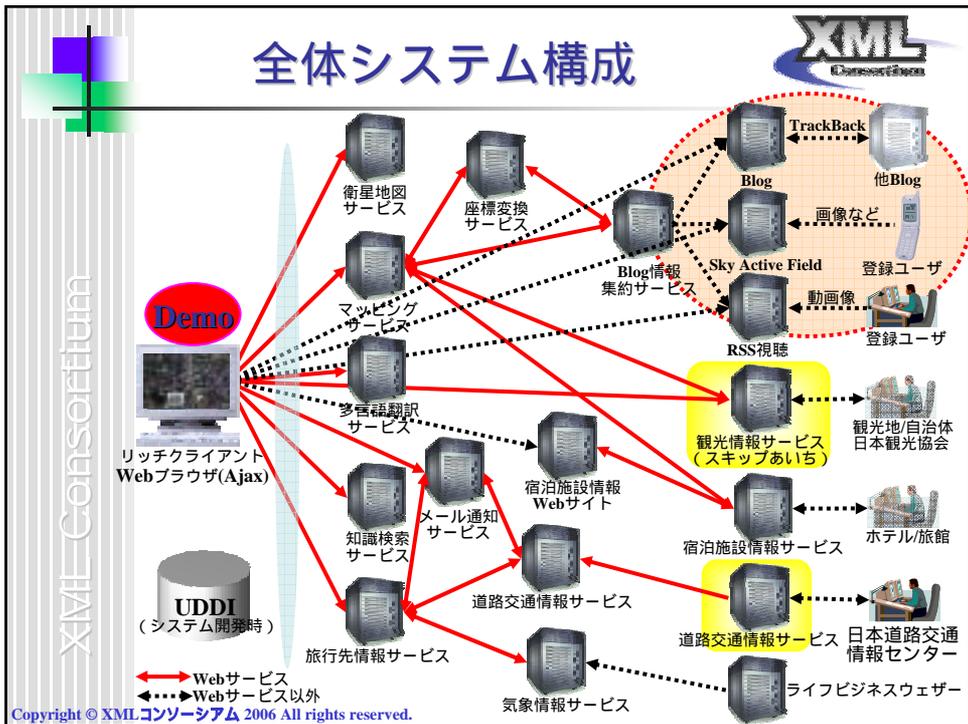
- 道路交情情報から次の目的地までの所要時間が推定
- 目的地到着時点の天気予報

### 出発予定時刻のメール通知

- 次の目的地の到着予定時刻に間に合うような出発時刻に携帯メールで通知
- 最新の交通情報を使って、メール通知時間を自動的に調整

### 観光情報の登録/発信

- 携帯電話を使って、静止画や動画を含んだ旅行情報を登録/発信





# XML Consortium

【 Web2.0勉強会 第1回ミーティング 】

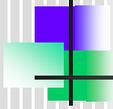
## Web2.0視点からみた

by XML Consortium

### 2006年3月3日

松山 憲和 (PFU アクティブラボ株式会社)

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



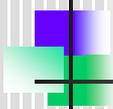
# Web2.0視点



XML Consortium

- データは次世代の「インテル・インサイド」
- プラットフォームとしてのWeb
- リッチなユーザ経験
- ロングテール
- ユーザは協力者、集合知の利用 / ユーザ参加型
- 進歩的性善説
- フォークソノミー
- 進歩的分散志向
- 軽量なプログラミングモデル
- 単一デバイスの枠を超えたソフトウェア
- ソフトウェア・リリースサイクルの終焉

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



# データは次世代の「インテル・インサイド」



XML Consortium

## コンテンツが命！

- 道路交通情報
- 衛星画像
- 観光データ
- 宿泊施設データ
- 気象データ
- 翻訳辞書
- 百科事典
- ブログ
- 静止画像
- 動画



単一のコンテンツとしても  
十分価値を持っているが...

利用シーンによる  
コンテンツの組み合わせによって  
更に、価値が高まる。

組み合わせるには...

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.

## プラットフォームとしてのWeb



### 命であるコンテンツを生かすために！

- コンテンツを外部から利用するためのインタフェース（OSでいうAPI）が必要
- Webサービス by SOAP、Webサービス by REST どちらでも
- 一概には言えないが
  - ・トランザクション系/データ項目が多い/複雑な場合：SOAP
  - ・単発処理、データ項目が少ない/単純な場合：REST
- とはいえ **PLAT** では、コンテンツ提供側のインタフェースやコンテンツ利用者側の使い勝手で使い分け。
  - ・道路交通情報、気象情報、宿泊施設情報、翻訳... SOAP
  - ・ブログ、携帯画像、動画... REST
  - ・衛星画像：SOAP+REST

コンテンツの組み合わせ利用には  
インタフェースが必要

APIだけあっても  
利用者は使えない..

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.

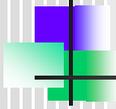
## リッチなユーザ経験 (1)



### コンテンツを効果的に利用するために！

- リッチユーザインタフェースが必要
- Ajax、Eclipse、Flash、CurlなどのRIA技術。



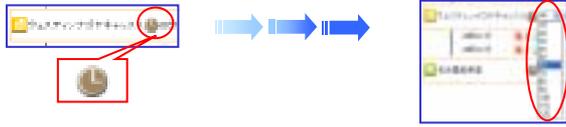


## リッチなユーザ経験 (2)

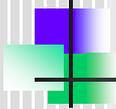
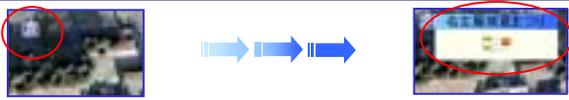


XML Consortium

をクリックすると、滞在時間の選択ボックスを表示



情報アイコンをクリックすると、ツールボックスを表示



## リッチなユーザ経験 (3)

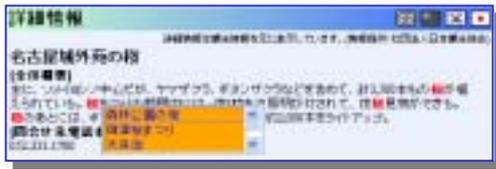


XML Consortium

フィルタボタンをクリックすると、情報アイコンを非表示



キーワードをクリックすると、関連知識のキーワード一覧を表示



# ロングテール ユーザは協力者、集合知の利用/ユーザ参加型 進歩的性善説



ブログ/カメラ付き携帯電話レポートシステムを使い  
コンテンツを自由に追加



権威ある観光情報だけではなく  
口コミ情報など“ロングテール”部分の  
幅広い情報を活用

情報の信頼性は？  
•利用母数が少ないため評価できず  
•情報フィルタリングは必要か  
•それとも量的性善説に任せるか

# フォークソノミー



何をキーに連携するのか

- 位置情報(緯度/経度、)
- 観光地名(建物名、パビリオン名)
- イベント名(愛・地球博 or 愛知万博...)

観光地名やイベント名は  
フォークソノミーによる  
分類/関連付けが有効

# 総括



...Web2.0を意識して、実証実験を行なったわけではないのですが...

## 果たして、このシステムは『Web2.0』か？

Web2.0を構成する要素	本システムの機能/特徴/コンセプト
1 ユーザは協力者 集合知の利用/ユーザ参加型	BlogやSKY ACTIVE FIELDによる観光情報の追加 ブローカーによる交通情報の提供
2 進歩的性善説	“正当な”観光情報と口コミ観光情報(Blog)などのmix
3 ロングテール	飲食店や特産品へ地図や観光情報からリンク
4 リッチなユーザ経験	リッチクライアントとAjaxによるユーザビリティ向上
5 進歩的分散志向	マッピングWebサービスにより、分散したサービス/コンテンツ を簡単に地図上にマッピング可能
6 フォークソノミー	観光情報(メタデータ)のカテゴリ化
7 データは次世代の「インテル・インサイド」	道路交通情報、衛星画像、観光情報、気象情報、翻訳辞書、 百科事典などのデータベースをWebサービス経由で利用
8 ソフトウェア・リリースサイクルの終焉	実証実験期間中、どんどん進化していった機能
9 軽量なプログラミングモデル	RSSによる疎連携とWebサービスによる“密”連携
10 単一デバイスの枠を超えたソフトウェア	カーナビ/TV/携帯電話/PDA/キオスク端末でも使えそう？
11 プラットフォームとしてのWeb	各Webサービスは、この実証実験のクライアントからだけでは なく、それぞれ単独でもアプリケーションのWebコンポーネント としてのパフォーマンスを持っている

## 『Web2.0』的要素を持ったアプリケーション

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.



# XML Consortium

【 Web2.0勉強会 第1回ミーティング 】

## まとめ

2006年3月3日

松山 憲和(PFUアクティブラボ株式会社)

Copyright © XML Consortium 2006 All rights reserved.

# Web2.0 for Enterprise (Enterprise Web2.0)



XML Consortium

## Web2.0の思想/技術は企業システムに利用できるか?

- Web2.0システムを利用する場合は比較的敷居が低い
  - ✓ Google Mapを社内システムと組み合わせて利用
- 社内システムのWeb2.0の思想/技術を活用
  - ✓ Ajaxなどの要素技術は即導入
  - ✓ Web2.0視点での相違（インターネットとエンタープライズ）
    - 量的相違（over 数十万人 vs 数十人～数万人）
    - 価値観相違（個人の価値観 vs 組織としての価値観）
    - 力関係（対等な力関係 vs 組織として統制）
  - ✓ とはいえ、このような相違の影響が少ない部分から導入が進む
    - 技術的/人的な情報共有（既にBlog/Wikiは導入済み）

一緒に、  
勉強してきましょう！

Copyright © XMLコンソーシアム 2006 All rights reserved.



XML Consortium

【 Web2.0勉強会 第1回ミーティング】

# END

ご清聴ありがとうございました。

Copyright © XMLコンソーシアム 2006 All rights reserved.